

# ロシア留学を終えて

情報文化学科 2年 本間久美子

## ① 出発から到着まで

私は8月30日から12月23日までの約4か月間、ウラジオストク国立経済サービス大学に留学してきました。私は今まで海外に行ったことがなかったので、この留学を通して外国を自分の目で見たいと思い留学を決意しました。また、今まで親元を離れたことがない私にとって、少しでも自立する良い機会だと思いました。パスポート取得から私の留学準備が始まりました。ビザの取得や留学生活に必要な日用品の買い出し、荷造りなどの準備は早め早めに計画を立てて行動するべきだと身をもって経験しました。

出発当日、成田空港でビザに顔写真を貼ってはいけないと知った私は絶望しました。ビザに顔写真を貼ってしまった私はみんなと一緒に出発することは出来ず、一人新潟に帰ることになりました。新潟に帰ってから落ち込む暇もなく新しいビザ取得、航空券取得に追われました。そして8月30日、皆から3日遅れで無事ウラジオストクに到着することが出来ました。出発にあたって、成田空港でずっと励ましながら一緒についてくださった神長先生、すぐに旅行会社に連絡をとってくれた学務課の清水さん、新しいビザと航空券を迅速に用意してくれたロシア大使館の方、旅行会社の方、二度目の出発も変わらず温かく送り出してくれた両親と友人、ウラジオストク空港まで迎えに来てくれたプラーソル先生。多くの人々の支えと協力のおかげで留学することができました。出発の時点でこのことを知り、より一層勉学に励もうと思うことができました。

## ② 授業について

9月1日から授業が始まりました。授業は文法やリスニング以外にも音楽や地理、歴史などがあり、語学だけでなくロシア文化やロシアから見た日本を知ることができ、とても充実したものになりました。

初めは日本人のみのクラスで私たちが分かるように英語に置き換えたり簡単な単語にしたりして説明してくれました。それでも私は自分の単語力不足もあり、先生の早いロシア語についていけないことがしばしばありました。授業についていけない焦りと悔しさから、宿題以外にも単語をひたすら暗記し、どうにか先生の言っていることを理解できるようになりました。9月15日からは新しいクラスに分けられ新しい時間割での授業が始まりました。新しいクラスは日本人、韓国人、中国人、インドネシア人で構成されていました。新しいクラスメイト達は私より遥かにロシア語が理解できていて、授業では彼らが発言しているのを聞くことしかできず、もっと勉強しなくては…とまた一段と勉強に力が入りました。授業間の休み時間にはお互いのお菓子を交換したりお互いの国の話をしたりとロシア語でコミュニケーションをとることができ、とても楽しかったです。休みの日にはインド

ネシア人のクラスメイトが住む教会に遊びに行き、一緒にサッカーや卓球をしました。彼らと一緒に過ごせたことが本当に楽しかったし、貴重な体験となりました。



### ③ 行事、イベント

休みの日や放課後に先生方がたくさんのイベントや遠足に連れて行ってくださいました。特に楽しかったのは音楽に合わせ輪になって踊る参加型の行事でした。最初は恥ずかしくてなかなか円の中に加わることはできませんでした。しかし、半ば強引にロシアの方が円に入れてくれて本当に嬉しかったし楽しい体験ができました。音楽が流れたら自然と踊りだしたり歌いだしたりするロシア人の陽気で明るい性格が大好きになりました。その他にも子供たちの歌やダンスが見ることができるイベントやロシア楽器に触れる機会を設けてくださいました。ロシアの人は本当に声が綺麗で歌が上手く、また民謡などもメロディが綺麗で私はロシア音楽に関心を持ちました。留学前はロシアの歌を一曲も知らなかった私にとって、とても大きな変化でした。今まで知らなかった世界を肌で感じるというのはとても貴重な経験のように思いました。

また、先生方は私たち留学生のために遠足を計画してくださいました。大学に通う留学生約100人で海沿いにバーベキューをしに行きました。ゲームをしたり一緒に写真を撮ったりと他国の留学生と関わることができ楽しかったです。

そして何といても一番のイベントは帰国4日前の私たちの発表会だと思います。私たちは音楽の時間にたくさんのロシア民謡とロシアの楽器を習いました。その成果を先生や他の国の留学生に見せるというものでした。4曲の民謡とロシア楽器での合奏を発表しました。民謡はロシア語の歌詞を暗記するのに少し苦しみましたが、皆で協力して本番に臨むことができました。イベントではロシアの文化や芸術などにたくさん触れることが出来て充実したものとなりました。



#### ④ 寮での生活

寮は学校に隣接していて、教室までは5分ほどで行けたのでとても便利でした。二人部屋で、日本人二人で生活しました。といっても、近くに他の日本人留学生の部屋があったので困ったときはお互い助け合うことができました。寮には寮母さんと管理人さんがいて私たちのことを温かく見守ってくれました。部屋のカギを管理してくれたり飲み物を売ってくれたり電気が切れたときは直してくれました。私が住んでいた部屋はゴキブリがたくさん出現したり、暖房が弱く寒い思いをしたりすることもありました。また、シャワーが壊れて部屋で大洪水を起こしてしまった時もありました。どんな時も寮母さんと管理人さんの優しさで乗り越えられたように思います。

寮での食事は自炊が基本でした。キッチンが階に一つしかなくキッチン用具も共同で使っていたので時間をずらして作っていました。私はパスタ、チャーハン、カレーをよく作っていました。日本食が恋しくなるのでサトウのごはんや粉末の味噌汁を多めに持っていくことをおすすめします。

#### ⑤ ウラジオストクで生活するという事

夏のウラジオストクは日本並みに暑く、とにかく日差しが強かったです。しかし、新潟と違ってジメジメした暑さではないのでそこまで不快ではなかったです。靴はスニー

カーが必須です。ウラジオストクは坂が多く、しかも斜面が急なのでヒールの靴を履いている人はあまりいませんでした。基本的に雨は降らないといわれていましたが、私たちが生活した期間では何度か降ってわざわざ傘を買った人もいたので、日本から折りたたみ傘を持って行った方が良いと思います。10月頃には寒くなり、日本から持って行ったコートを羽織っていました。

11月後半には日本では体験したことのないような寒さになっていました。外に出かけるときはマフラー、手袋、ニット帽が必須でした。してないと、寮母さんに怒られるくらい大事なものでした。その割に室内は暖房がガンガンに効いていたので、服装に気を使いました。ヒートテックも大事ですが、何枚も着込んで室内に入ったら脱げるようにした方が良いと思いました。洋服は日本から持って行ったものと、街で2500円程度で買えるので何着か買って着ていました。ブーツは持っていかなかったのですが、絶対に買った方が良いと言われウラジオストクで買いました。3500円くらいでした。私たちが行った年は例年に比べ多く雪が降り、本当に買ってよかったと思いました。しかし坂が多いので滑ることが何度もあり、少し怖かったです。

学校から街の中心部まではバスで15分程度、約50円で行けるので休みの日は毎週のように行っていました。中心部では市場やたくさんのカフェがあります。安くはないですがとても美味しく、よく利用していました。街並みがヨーロッパのようでどの建物もおしゃれで散歩しているだけで楽しかったです。また、学校から徒歩10分ほどのところにとても景色がきれいな丘のような所があります。夕焼けと夜景が特に綺麗でおすすめです。



## ⑥ 留学での珍体験

私は留学で様々なトラブルを経験しましたが、一番大変だったのは入院したことです。11月後半、カフェでお寿司を食べたことでサルモネラ菌にかかってしまったのです。



その時一緒に食べに行った友人は何もなかったのが私の免疫力が弱っていたのが原因だと思います。その日から高熱と下痢に襲われ、何も手につかない状態になってしまいました。向こうでお世話をしてくれていた森さんが寮に駆けつけてくれ、救急車で一緒に病院まで行きました。検査を受け、ベッドに案内されたのですが、病院が改装中ということで廊下に乱雑に並べられたところで唾然としました。他の患者さんは何食わぬ顔で横になっていたことにもびっくりしました。私がとても嫌な顔をしたら2日ほど点滴室のベッドにいる許可をくれました。そこから1週間の長い入院生活が始まりました。ロシアのお粥は甘く、私の口には合いませんでした。病室はwi-fiが通っていませんでしたので携帯で連絡を取ることも暇つぶしをすることも出来なかったのが辛かったです。何より授業に出席できず皆に遅れをとってしまったことがとても悔しかったです。そんな生活を乗り越えられたのはお見舞いに来てくれた森さんやスベトラーナ先生、友人のおかげだと思います。出られなかった授業のノートをとってくれた友人にも感謝です。

#### ⑦ おわりに

長いようで短い約4か月の留学生活が終わり、たくさんの人の優しさに触れられたように思います。私の留学生活は楽しいことだけではなく、大変だと思ったことも多くありました。しかし、周りの人がいつも助けてくれて無事終えることができたのだと思います。最初は慣れない土地で暮らすことに不安しかなかったけど、暮らしてみて分かるその土地の人柄や価値観を実際に感じることができ、視野が広がりました。留学をしたからこそ日本の良い面に気づけたようにも思います。この留学は私を大きく変えてくれたかけがいのない体験になりました。この経験を無駄にしないよう、これからも語学勉強を頑張りたいし、世界に目を向けていきたいと思いました。この留学でたくさんの人にお世話になったのでこれから少しでも恩返ししていきたいと思っています。

